

四条金吾殿御返事

御書新版 1522頁 13行目〜15行目
御書全集 1117頁 18行目〜1118頁 3行目

（煩惱即菩提の事）

法華經の信心をともし給え。火をきるに、やすみぬれば火をえず。強盛の大信力をい出して、「法華宗の四条金吾、四条金吾」と、鎌倉中の上下万人、乃至日本国の一切衆生の口にうたわれ給え。あしき名さえ流す。いわんやよき名をや。いかにいわんや法華經ゆえの名をや。

語句

火をきる

「きる」は「切る・鑽る」とも書き、木と木を激しく摩擦して火を得ること。

通解

法華經の信心を貫き通しなさい。火をおこすのに、途中で休んでしまったなら、火を得ることはできない。強盛の大信力を出して、「法華宗の四条金吾、四条金吾」と、鎌倉中の上下万人をはじめ、日本国の一切衆生の口にうたわれていきなさい。人は悪名でさえ流すものだ。まして、善き名を流すのは当然である。ましてや、法華經ゆえの名はいうまでもない。